

令和6年9月定例会 一般質問 野口昌史議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

「香芝市における地域公共交通について」

○野口昌史 皆様こんにちは。

議長のお許しをいただきましたので、日本維新の会、野口昌史が一般質問をさせていただきます。先ほどのトリ前の中村議員に引き続き大トリを務めさせていただきますので、2日間にわたりの代表質問、一般質問で皆様非常にお疲れのところだと思いますが、最後までお付き合いいただけましたら幸いです。

今回も前回に引き続き地域公共交通について質問させていただきたいと思います。また地域公共交通かと言われる方がいらっしゃるかもしれませんが、これ、いろいろと勉強しますとなかなか中身について深いものがありますので、引き続き質問させていただきたいと思います。

市長が公約に掲げておられました自家用車がなくても暮らせるまちづくりを目指すという目標は、これは私も大いに賛同するところでございます。前回の質問におきましても市長と見えてるゴールが同じであるということで市長の意気込みやお考えを確認いたしました。が、今回は前回の継続ということでさらに具体的なビジョンについてお伺いさせていただこうと思います。

前回の質問からさらにいろいろと調べていく過程で、利用者が少ない、イコール単純に採算だけでこの地域公共交通全体が痩せてしまう減便などを拙速に進めるだけでいいのかという、その疑問が湧いてまいりました。今資料をつけておりますが、中継の方はホームページで国交省の恐らくクロスセクター効果ってということで検索していただいたら、その資料がPDFで出てくると思います。ここに書かれてます地域公共交通、クロスセクター効果ということなんです。ここに書かれてますように赤字イコール廃止でいいのか、地域交通が廃止になることで医療送迎やスクールバスなどが必要になったりすることでかえって行政コストが増加するかもしれないと書かれております。この考えに基づきますと、この地域公共交通は単なる移動手段の提供にとどまらず、地域の環境保全、経済の活性化、健康、福祉の向上など多岐の分野において重要な役割を果たすものでございます。このようなクロスセクター効果に注目し、また同じような概念としてスマートモビリティ・フォー・ウェルビーイング、横文字でございますが、これは単に効率的な移動手段を提供するだけでなく住民の生活の質や全体的な幸福感を向上させることを目指した交通システムのことで、健康、福祉、社会的つながり、環境の持続可能性など様々な要素を包括的に捉え、住民のウェルビーイングを中心に据えたモビリティの提供を目指すということでございます。これらの

ことに注目いたし、地域公共交通がほかの政策領域とどのように連携し、そして相互に利益をもたらしているのかを検証していくべきだと考えております。

公共交通分野政策は、実に多面的な影響を与えるものであることはあまり知られておりません。医療、福祉、地域コミュニティ、定住促進、交通安全、あるいは環境など、すなわち地域公共交通を減便、廃止することによりこれだけ多くの分野に影響を与えてしまうことになります。具体的に健康、福祉の影響について一例を申し上げますと、例えば地域に住まう方がバスやタクシー等で公共交通があることにより高齢者の方々や障害をお持ちの方々の社会参画を促進しているという面もありますが、それをまた減便することによってその方々が孤立をしたり、また健康維持にも悪影響を及ぼしたりする可能性が新たに出てくるケースでございます。

国交省におきましては、このクロスセクター効果という考えに沿って実際の効果の算出を促しております。これは資料の最後のほうに何か計算式が載っておりますので、詳しくは添付した資料をご参照ください。これらにより、多くの事例では現在市が財政支出している地域公共交通運営コストのほうが少ないケースが多いということが書かれております。このことから、市の財政支出分は、もはや赤字というわけではなく、むしろ行政コストが割安になっているという現実が浮き彫りになっているということが書かれているわけでありませ

す。そこでお尋ねいたします。

香芝市におかれましては、このような多分野への影響を踏まえた総合的な検証をどこまで具体的に行われてきたのかをお聞きいたし、私の壇上からの質問とさせていただきます。

○危機管理監 本市におきましても公共交通は複数の施策に効果が波及しておるものと考えております。また、現在の公共交通施策は、平成10年頃より福祉センター及び市役所や周辺の中央公民館、ふたかみ文化センターと各地域のシャトルバスの運行から見直しを経て現在まで継続して実施しております。多くの施策に効果を有してきたと考えております。

以上でございます。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。行政の仕組みというのは基本的に縦割りになっておりますので現状では他の部局との調整はなかなか難しいものだと認識しておりますが、現在三橋市長が取り組まれようとされてる市の組織機構の再編に加えまして、9月2日の議会の際にも発言されておられたように部局横断的視点、いわゆるクロスセクターの視点を持って引き続きこの問題に取り組んでいただきたいと考えております。

次に、これまでも香芝市のほうでも公共交通に関連する研究や推進のための様々な取組をされてきたと聞いておりますが、そこで

お尋ねいたします。これまでに具体的にどのような取組をされてこられたのかお教えてください。

○危機管理監 国土交通省などの説明会や研修会、他の地域事例の聞き取りや現地調査を随時実施しております。また、協議の場といたしまして、交通事業者や市民の代表などで構成されます香芝市地域公共交通活性化協議会での審議を平成22年度より継続して実施して

おります。

以上でございます。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。水面下でいろいろとご努力されてるとお聞きしておりますので、引き続きよろしく願いいたします。そして、ぜひこの件に関しましては、生活安全課がリーダーシップを執って他の関連部局とうまく協力していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

次に、持続可能な地域公共交通の展開についてでございます。

さきに述べましたように、地域公共交通が多分野に与える様々な影響を踏まえますと、むしろさらに地域公共交通の持続可能性に力を入れていき、人口減少の未来図がたとえあったとしても持続可能なスキームをつくる必要性も見えてまいります。今のバスとタクシーのみの運行の図式では、ドライバー不足の課題はいつまでたっても解決できません。その現実を踏まえて、国も自動運転技術の導入を踏まえた地域公共交通の在り方を想定しているところでございます。

具体的には、国交省から2024年度、新たな方針が発表されました。国におきましては、2022年12月の閣議決定でデジタル田園都市構想総合戦略が決定され、自動運転について国際標準化も見据え、2025年度をめどに50か所程度、2027年度100か所以上自動運転を社会実装することが目標化されております。その段階的実行の具体的な計画として、2024年に一般道での通年運行事業を20か所以上倍増させること、そして自動運転の裾野の拡大を図るために全ての都道府県で1か所以上計画、運行を目指すと報道されておりました。国は、各都道府県でいつでも気軽に自動運転バスや自動運転タクシーに住民が触れ、住民から見えるレベルの自動運転技術の導入を図ろうとしております。これ、またPDFの2つ目の資料にも書いておりますので、またご参照ください。

この発表を鑑みても、自動運転という新たな技術導入は地域公共交通の持続性を考えたときに、もはや欠かせないと言えると思います。行政運営における長期的な視点で財政面を考えると、運営コストは新たな技術の導入で縮小されていくはずでございます。となれば、地域公共交通のグランドデザインは一層充実していくものだと考えられます。

そこでお尋ねいたします。

持続可能な公共交通の展開には新たな技術の導入はもはや欠かせないと考えますが、三橋市長におかれましては本市の地域公共交通の今後の展開を具体的にどのようなお考えであるか伺いいたします。

○市長 令和5年度におけますコミュニティバス及びデマンド交通合計の利用者は、9万人を超えてございました。ただいまのご質問は、自動運転に限らず新たな技術の導入に關してのものかと思ひます。新たな技術という意味では、地域公共交通をより充実させていくために、例えばGIS、地理情報システムなどを活用しながら人口分布、人流データ等を分析して停留所の設置や路線の設定の見直しにおいてより効果的なものにするこゝとによって利用者の増加を図るなど、そういった取組をすることができるとはなひかというこゝとを

考えてございます。都市創造部に指示しているところでございますが、地理情報システムを積極的に活用してそういったところにも役立てていきたいというふうに思っております。私といたしましては、当面の間は特にコミュニティーバスの充実を図りながら地域の公共交通を安定的に維持していきたいと考えておりまして、民間事業者の新規参入を阻害しないようにも十分に配慮しながら、必要に応じて見直しを加えながら最少の経費で最大の効果を目指すべきものと考えております。

以上でございます。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。続けて市長に質問させていただきますが、国の掲げる各都道府県で1か所以上の計画、運行を目指すという方針はまさに国の前向きな姿勢を表すものでございます。これ、すごく香芝市の魅力を相当に高める効果もあると思いますが、奈良県で1番に名のりを上げる意気込みはございませんでしょうか。

○市長 自動運転に関しましては、本市においての有効な手法かどうかについて、費用対効果や事業の持続可能性など具体的な見通しが立っていないものと考えてございます。一方で、国の方針もございますので、今後も情報収集に努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。私は、新しい技術の導入期というのは多くの方々の方が不安や心配をしてしまうこと自体は致し方ないということだと思っております。でも、行政は消極的にはなってはいけないものと考えておりますし、この地域公共交通の持続可能な展開に際しては必要不可欠な自動運転技術について、住民の皆様の不安や心配を払拭するためには少しでも身近に見て触れ、体験し、利便性を感じていただくことで徐々に受容性が高まってくるはずだと考えております。長い歴史を振り返れば、これまでも恐らくそうだったはずだと思います。それと、先ほどの答弁の中で出てまいりました香芝の香芝スポーツ公園事業と関連させまして、ウォータースライダーに加えまして自動運転バスが走るとかなり魅力的になるんじゃないかと私は考えております。

では、次の質問に参ります。

2番の質問に関連しましてでございますが、本市の既存の交通手段であるコミュニティーバス、デマンドタクシーに加えて、検討段階でそれを補完するためのよりよい技術や他の交通手段がありながら、例えばこの香芝市におきましてはいまだそのインフラが未整備のため採用できない、あるいはこれさえクリアできれば採用できるなどの事例がもしありましたら教えてください。

○危機管理監 ご指摘のような事例につきましては、特に今のところ把握してございません。

以上でございます。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。インフラの整備となりますと市単独では難しい面があると思いますが、先ほど述べましたように国が自動運転を前向きに、さらにはそれに伴う道路の支援も推進すると言っている現状、うまくこれに乗っていただけるよう

をお願い申し上げます。

次に、地域住民との協働についてでございます。

狹隘地域において、地域住民が主体となって交通手段を改善する取組が全国の様々な自治体で実施されております。例えば、前回も述べましたが、奈良県の王寺町では地域住民と自治会が連携して電動カートを活用した移動サービスを提供しており、住民のニーズに即した交通手段を実現しております。その他、詳しい説明は省略いたしますが、京都府京丹後市のデマンド交通や岡山県の真庭バスなど、成功例が幾つかあるようでございます。

そこでお尋ねいたします。

香芝市におきましても、特に交通が不便な地域におきましては地域住民と協働し、新しい交通サービスを構築することが有効ではないかと考えておりますが、それに対しての市のお考えをお教えてください。

○危機管理監 本市の公共交通につきましては、民間の鉄道や路線バスを幹線、コミュニティーバスを補助幹線として、さらに市全域対象のフルデマンド運行を展開しております。香芝市地域公共交通活性化協議会での合意を経て既に複数の交通モードを展開していることから、まずは現在運行しております公共交通の周知、利用促進を図り、必要に応じて見直しを図りながら持続可能なものとしていくことが必要と考えてございます。

以上でございます。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。この住民との協働ということですが、うちの近所でも知り合いの方が高齢者の方を、たしか足が不自由な方だったと思いますが、その知り合いの方が空いた時間を利用して市役所や病院に送っていったりとされてる親切な方もいらっしゃるしまして、これが自助、共助ということであるのではなかろうかと思いますが、こういう視点からも自助、共助は大事だと思いますが、とはいうものの他人を車で送るっていうのはやっぱり安全性に問題があるっていうこともありますし、そういう意味でも自助、共助に加えまして市のほうでも何らかのサポートはしっかりとさせていただきますようによろしくお願い申し上げたいと思います。

次に、先ほどのようなご答弁の中にありましたように、持続可能な地域公共交通の展開に欠かさないテーマのもう一つの大きなテーマ、利用者を増やす取組についてでございます。

現在香芝市のほうでは各停留所に行き先を分かりやすく表示したりして利用者増を図ろうといろいろと模索されておられると思いますが、利用者増の取組はどんどん積極的に行うべきだと考えますが、先日の協議会を傍聴しておりましたら、これは多分川田議長からの意見だと思いますが、子供の乗車料をただにしたらいいか、具体的な提案が出てましたり、そしてまた市内のイベントに合わせて臨時便を増発し、広報することで利用者の増加も見込めるのではというすばらしいアイデアもたくさん出ておりました。

そこでお尋ねをいたします。

このような利用者増のアイデアについて三橋市長はどのようにお考えでしょうか、また協議会からのアイデアのほか具体的な計画等があればお聞かせください。

○市長 市民から頂戴したご意見については、真摯に検討してまいりたいと考えております。引き続き利用者の増加に向けた取組を実施してまいります。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。やっぱりこの市民からの意見がしっかりと反映されるっていうことは、いいことだと思います。

では、引き続き香芝市地域公共交通活性化協議会に関連しましてお尋ね申し上げます。

これまで協議会のほうで挙がってきたアイデアや具体的な提案について部局ではどのように扱われ、検討、検証されているのでしょうか、また具体的に実行されたアイデア等がございましたらお聞かせください。

○危機管理監 協議会で挙がりましたご意見につきましては、議案として整理され次第、協議会で審議をさせていただいておりますのでございます。具体的に施策に反映されているものにつきましては、例えば現在計測期間中でございます香芝市コミュニティーバスの停留所・ルート（便）見直し廃止基準がでございます。

以上でございます。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。引き続き協議会におかれましては、市民の声がしっかりと反映されるようお願い申し上げます。

それから、協議会の今後についてでございますが、先日初めて協議会の傍聴に行かせていただきましたが、私の感想ですが、香芝市側からの議題の提案が少し少ないように感じました。そうそうたるメンバーが参加する協議会でございますので、一回一回の時間、コストという意味では私にしてみれば少しもったいないのではと感じざるを得ませんでした。もちろんこれまで数十回と開催され、有意義な議論がなされてきたことは間違いないとは思いますが、これはあくまで一般論でございますが、一般的にこのような協議会等は回数を重ねてまいりますとマンネリ化、形骸化される傾向がございますので、この地域公共交通協議会におかれましてはぜひそのようなことがないように、またもっと市民の目に見えるような形で行われるように強く要望いたします。

続きましての質問ですが、利用者のニーズの調査についてお聞きしたかったのでございますが、代表質問のほうで下村議員がアンケートの実施結果はということをお聞きされておりましたので、この質問については私は省略させていただきます。しかしながら、このアンケートにつきましては、利用者だけでなく、まだ利用したことがない方々や潜在的なニーズなどもぜひ調査いただき、さらに利便性を高めていただくようお願い申し上げます。

最後になりますが、繰り返しになりますが、この地域公共交通というのは単なる移動手段の提供にとどまらず、地域の環境保全、経済の活性化、健康、福祉の向上など多岐にわたる分野においても重要な役割を果たしております。すなわち、ここをしっかりと充実したものにしていくことは、香芝市のこれからの発展に必ずや大きく寄与し、またこの香芝市をより魅力ある町にしていくものだと考えております。私はそういう意味でも今後も継続してこの問題に取り組んでまいりたいと申し上げて、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。